

# 『平成30年度トップスポーツ組織の地域振興活動に関する調査』

—トップスポーツによる地域活性化とスポーツ振興を目指して—

## 報告書

令和元年9月20日

公益財団法人  
**ヤマハ発動機スポーツ振興財団**  
Yamaha Motor Foundation for Sports

# 序文

- 本報告書は2015年から調査研究活動を行っている公益財団法人ヤマハスポーツ振興財団「トップスポーツ・プロジェクト」の平成30年度（2018年度）の成果をまとめたものである。
- これまで本プロジェクトでは「プロフェッショナル－アマチュア」の垣根を越えた「トップスポーツ」に着目し、わが国のトップレベルのリーグ、チーム（クラブ）の運営実態について探索的調査研究を進めてきた。  
※「トップスポーツ」の持続可能なシステム構築に向けた探索的調査その1 -ジャパンラグビートップリーグに着目して-（平成28年度実施）
- 平成30年度は「一般社団法人トップリーグ連携機構」と当該機構に所属する各リーグ、各チーム（クラブ）の協力により、トップレベルの競技組織が拠点地域（ホームタウン）において、どのような活動を行っているのか、その実態に迫る調査を実施することができた。
- 本プロジェクトの主要なテーマは「“地域社会”と“トップスポーツ”の未来像の探求」にあるが、地域への関わりはプロスポーツとアマチュアスポーツでは大きく異なる。しかしながら、地域の側（自治体、地域の民間組織、住民）の視点に立つならば、プロ・アマ問わずスポーツ組織は、地域経済の活性化やまちづくり、住民の健康増進、子どもたちの教育に関わる「資源」として期待される対象である。
- プロとアマの境界を越えた比較、種目間の比較、地域間の比較を可能とする本調査研究の学術的な意義は大きいと考えるが、本プロジェクトの各メンバーは、地域で活動するリーグやチーム（クラブ）の関係者、それらの組織に関わる競技団体、自治体、企業・NPOなどが活動の施策を策定していくことに活かせる研究にすることを常に心がけてきた。プロジェクトメンバー一同、これらの組織に本研究を活用していただき、わが国のトップスポーツと地域社会の振興に役立つことを期待している。
- 今後は自治体や地域住民に対する質問紙調査やインタビュー調査などを行い「トップスポーツと地域社会の未来像」について、より立体的に描くことができるような調査研究を実施していきたい。

最後に、本調査研究にご協力いただいた一般社団法人トップリーグ連携機構と機構に所属するリーグ、チームの関係者のみなさまにこの場を借りて心よりお礼を申し述べたい。

YMFIS調査研究トップスポーツ・プロジェクトリーダー  
岡本純也（一橋大学 経営管理研究科 准教授）

## 【目次】

- 序章 報告書の概要
- 調査票
- 報告書サマリー
- 第1章 トップスポーツ組織の事業概況まとめ
- 第2章 トップスポーツ組織のホームタウンに関するまとめ
- 第3章 トップスポーツ組織の地域活動の捉え方や課題に関するまとめ
- 第4章 トップスポーツ組織の地域における具体的活動状況のまとめ
- 第5章 トップスポーツ組織が重要視するステークホルダーまとめ
- 第6章 トップスポーツ組織のマスコットキャラクター・商標・グッズに関するまとめ
- 第7章 トップスポーツ組織の地域活動におけるベンチマークまとめ
- 報告書執筆者一覧